

実証概要

設定した解決したい課題

有料老人ホーム立入検査では、原則当日中に改善指示事項を施設側へ紙で交付しており、作成した指示事項を改めてデータ入力している。改善指示事項の作成時には、手書きで作成しているため書き間違い・訂正が少なからず発生しており、作成に時間を要している。

解決の方向性（実証事業者との協議結果）

有料老人ホーム立入検査業務をタブレット運用で行えるようにワークフローシステムを構築する。
施設側への立入検査をタブレット運用にて行い事務作業時間の削減を図る。

<検証項目・KPI>

- ・立入検査業務時間の削減率
(資料検索時間：80%以上、入力時間：50%以上)
- ・報告書作成時間の削減率（入力時間：80%以上）
- ・書き間違い発生の防止、迅速で適切な指示の実現

試行運用の概要

<方法> 試行運用期間に予定されている有料老人ホーム立入検査業務において、システム構築したタブレットを運用し、事務作業時間が削減できるかを検証する。

<期間> 2024年10月17日～11月29日



実証結果

工夫したポイント

- ✓ 施設へ交付する改善指示事項をデータ化することで、システムにそのまま取り込む機能を追加した。

実証実験の評価及びKPIの結果

- ✓ 電子ファイルで渡された方が「書類の紛失リスクが減るため、従来の紙運用より電子化運用の方が良い」「タブレットだと画面を拡大できるのでとても見やすい」等の好意見があった。
- ✓ 書類ファイルを持ち運ぶことがなくなり、立入検査の移動前の準備時間や移動負荷が減った。

<KPIに関連する結果>

- ・ 立入検査業務（資料検索時間） 削減率：75%（目標80%のため評価△） ※現状は平均4分→実績は平均1分（▲3分）
- ・ "（入力時間） 削減率：87%（目標50%のため評価○） ※現状は平均30分→実績は平均4分（▲26分）
- ・ 報告書作成（入力時間） 削減率：43%（目標80%のため評価△） ※現状は平均15分→実績は平均8.6分（▲6.4分）
- ・ 電子ファイルで渡された方が「書類の紛失リスクが減るため、従来の紙運用より電子化運用の方が良い」「タブレットだと画面を拡大できるのでとても見やすい」等の好意見があった。

導入に向けての課題と解決策

- ✓ 法改正が行われた場合に帳票フォーマットを変更する可能性があり、その際に職員側でも編集対応できるようにする必要がある。
- ✓ 立入検査時に撮影した写真を取り込み後に、写真に手書きでメモを記載できるようにすることで業務時間の削減につながる。

文書一覧



改善指示事項作成

